平成28年度
愛知県学力充実プラン推進事業

豊川市教育委員会の取り組み

本事業の目的や概略

学習指導要領では、基礎的･基本的な知識･技能の習得とともに、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力･判断力･表現力の育成が重視されています。
こうした中、愛知県は全国学力･学習状況調査の結果を分析し、子どもたちが抱える課題を解決するための方向性をまとめた「学力･学習状況充実プラン」を示し、愛知県独自で作成した「結果分析プログラム」を配付して、市町村や小中学校それぞれが抱える課題を明らかにする取り組みを支援しています。
豊川市では、全国学力･学習状況調査をもとに、県から示された「学力･学習状況充実プラン」や「結果分析プログラム」を積極的に活用し、豊川市の課題を明らかにしました。見えてきた課題を克服するために市教育委員会がプランニングを行い、そのプランに沿って各学校が教育活動の改善に取り組んできました。市全体でこの取り組みの共有･周知を図るため、リーフレットを作成･配付します。

平成27年度全国学力･学習状況調査による豊川市の課題

○平成２７年度の全国学力・学習状況調査結果から、次のような課題がみえてきました。
・小学校では、国語も算数も全体的に平均正答率が低く、特にA問題が低い。
・全国平均と比べ、成績上位者が少なく、中低位レベルの人数が多い。正答数と人数の分布グラフでは、全体的に下位方向にシフトした形になっている。
・中学校では、国語も数学もほとんどの内容で全国を上回っている。しかし、上位と下位に二極化している学校もあり、基礎学力に不安のある生徒がどの学校にもいる。
・小中学校とも、宿題に取り組む子は多いが、家庭での予習復習の時間が全国平均に比べ少ない。

課題を克服するための市としての取り組み内容

明らかになった課題を克服し、さらに学力を充実させていくためのキーワードは、「基礎基本の定着」と「わかる授業」!

(1)「基礎基本の定着」のための手だて…学校の実態に合わせた手だてによる
例)・短時間学習（帯時間や授業のはじめ5分間）で、一人一人のレベルにあった繰り返し学習を行う。
・子どもにとってより効果的な宿題の出し方、予習復習や次の授業に生かすことのできる家庭学習の工夫を図る。

(2)「わかる授業」のための手だて…全校「豊川の授業　16のポイント」を活用
★『豊川の授業　16のポイント』から今年度重点的に取り組みたい項目を選び、現職研修等で共通理解を図り、授業改善に取り組む。
・県の『学力･学習状況充実プラン』を活用する。
・推進校に外部講師等を招聘し、授業研究会や講演会を開催する。推進校は、先進的な取り組みの紹介や、授業の指導を受け、学んだことを市内全体に広げる。

推進校の取り組み

◇「基礎基本の定着」のための手だて
・週に2日間、朝学習の時間を10分間設け、基礎的な学習に取り組ませた。
・算数の既習内容の習得を主な目的とし、個別指導を充実させるために、担任とペア学年の教師が複数で指導にあたった。月1回、木曜日の第６時限に、４～６年生で実施した。
・授業開始後の５分間を使い、その授業の主課題のもととなる学習に取り組ませた。
・学期末には、基礎学習の総まとめとして「チャレンジテスト」を行った。テスト前の約10日間は「チャレンジ週間」とし、目標得点をめざして、朝学習や授業時間における復習に取り組ませた。家庭でもテストに向けての学習に取り組めるよう、保護者にも呼びかけた。
・日本語指導が必要な低学年児童を対象に、毎週水・金曜日の第６時限に宿題を個別指導する時間を設けた。日本語指導担当教師やボランティアの方が指導にあたっている。

◇「わかる授業」のための手だて
・単元ごとに、その単元での「学習を支えるよりどころとなる知識・理解・考え方」を明確にし、それを「根っこ」として全児童に理解させることに力を注いだ。また、新たな課題に取り組む場面で、「根っこ」に立ち返って考えることができるように黒板に掲示した。
（例）6年「立体の体積」の学習では、「柱体の体積は、一段目の体積×段数である」を「根っこ」とした。直方体で「根っこ」を理解させたあと、角柱、円柱へと学習を発展させていった。
・児童に提示する資料を工夫し、視覚的にわかりやすい授業に心がけた。また、全ての学級で、テレビの電源を入れるとすぐに見せたい物を拡大投影できるように、実物投影機を配備した。
・毎時間の授業の流れや板書を、「復習→めあて→まとめ→ふりかえり」とパターン化することにより、児童が見通しをもって授業に取り組むことができるようにした。
・全ての児童が図形などに触れながら考えたり、身体を動かしながら学んだりする、体験を伴う学習場面を積極的に設けた。
（例）４年「垂直・平行と四角形」の学習では、垂直と平行を感覚的に理解しやすいように、「垂直ビーム」「平行ビーム」の姿勢をとらせる場面を設けた。

○成果
・基礎的な学習を繰り返し行う時間を設定してきたことで、新たな学習に入ったときにすぐに投げ出すことなく、見通しをもち、根気よく問題に取り組む様子が見られるようになった。

	終わりまで聞く				聞こえる声で話す			
	よくできた	まあまあできた	あまりできない	できない	よくできた	まあまあできた	あまりできない	できない
H27	66%	28%	4%	3%	44%	39%	12%	5%
H28	79%	14%	8%	0%	53%	34%	12%	1%

【聞く・話すに関するアンケート調査結果】対象：全校児童

成果と課題

○「基礎基本の定着」「わかる授業」という２本柱を決めて、全小中校で自校の結果を振り返る場を設けたことで、各校の具体的な手だてが明らかになり、事例を共有することができた。
○「基礎基本の定着」への手だてとして、家庭学習の充実に着目する学校が増えてきた。今後は家庭学習にも目を向けて、市内で情報を共有して、学校・家庭・地域が協力して子どもの学力向上に取り組んでいくことができるようにする。
○「基礎基本の定着」への手だてとして、短時間学習や反復学習に取り組む事例が多くあった。これからの各校のカリキュラム・マネジメントにつなげていく。
○「わかる授業」への手だてとして、「豊川の授業　16のポイント」「授業チェックリスト」を全教員に配付したため、授業で大事にすることを共通理解することができた。また、教師がそれらを意識することで、授業の形態や子どもの様子が変わってきた。継続活用し、さらなる教師の授業力アップにつなげていく。
○「授業チェックリスト」は豊川市共有サーバーに入れておき、それを自在に取り出して作り変えることができるようにした。市内共通の形を学校や個人の実態に応じてカスタマイズできることは、たいへん意義があった。

豊川市教育委員会　学校教育課　TEL: 0533-88-8033

「基礎基本の定着」のための手だて～実践例～

「わかる授業」のための手だて ～「豊川の授業 16のポイント」を活用～

「基礎基本の定着」事例①　短時間学習・繰り返し学習

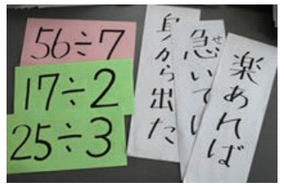
・朝の活動や5時間目のあとに10分間の短時間学習を設け、漢字や計算の練習をする。【小】
・書くことに慣れさせるため、朝の学習として5分間の視写を継続実施する。【小】
・朝の10分間ステップ学習として系統化されたプリント学習に取り組む。【小】
・授業の始めの5分間、一人一人の習熟度にあった繰り返し学習を行う。

「基礎基本の定着」事例②　ミニテストや月例テスト

・学期末に、基礎基本の総まとめとして「力だめしテスト」を行う。
・学期の終わりに、漢字・計算等を中心としたまとめテストを行う。合格ラインを決め、合格するまで指導することで達成感と基礎学力定着をめざす。【小】
・漢字、計算、英単語コンクールを設定し、それに向けて繰り返し練習を行う。
・５教科の基礎コンクールを年８回実施する。【中】

「基礎基本の定着」事例③　授業の中で

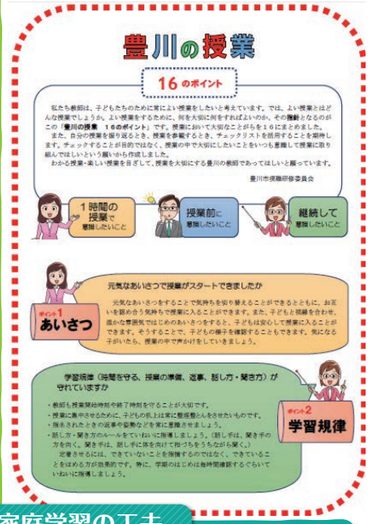
・本時のねらいを板書やカードで明確に示す
・「ふりかえり」の時間を設け、学んだことを確認する。
・視覚にうったえる教材の開発やICT機器の活用を図る。
・落ち着いて学習に取り組めるよう学習規律の徹底を図る。
・漢字ノートの使い方や練習の仕方を統一する。【小】
・授業の中で既習内容の復習をする場を位置づける。
・全員参加型の授業をめざす
・ワークシートでなくノートへ記述させる。【中】
・授業の導入で、既習の基本的な内容をフラッシュカードなどで復習する。



「基礎基本の定着」事例④　家庭学習の工夫

・習慣づけのため、全校統一で「漢字・計算・音読＋自主的なもの」に継続して取り組ませる。【小】
・家庭学習の手引きを作成し、家庭と協力して習慣化を図る。
・家庭学習を学年×10分＋10分と設定し、「家庭学習カード」に内容と時間を記入する。【小】
・金曜日、朝「自学タイム」、帰りの会「週間ふり返り」の時間を設け、個に応じた学習支援を行い、家庭学習につなげる。【小】
・平日用と休日用に本校独自でテキストを作成し、計画的に取り組ませる。【中】
・毎月の学習計画を発行し、保護者と連携する。【中】

豊川の授業　16のポイント



豊川の授業　16のポイント　②学習規律

○各教室に共通した学習規律を掲示する。全職員が共通理解のもとで指導することにより、学校全体が、落ち着いて授業に取り組むことができる。

「授業で大切にしたいこと」　※教室の前面に掲示

＜仲間とかかわり合おう＞

1.自分の思いや考えをはっきりさせる
・課題を意識しよう
・思ったこと、疑問に感じたことを箇条書きしよう
・活動する前に予想しよう
・どの（誰の）考えが近いかを意識しよう
・授業の終わりに、わかったこと、よくわからないことをはっきりさせよう

2.話す
・指名されたら返事をして立とう
・「○○さんと同じで」「○○さんと少し違って」「○○さんにつけたして」と、仲間の考えをつなげよう

3.聴く
・話す仲間の目を見よう
・自分の思いや考えと比べよう

○月ごとのめあて「チャレンジ☆」を決めて全校に呼びかけるとともに、掲示して日々の意欲化を図る。

11月のめあて「わくわくチャレンジ3」
「話し方名人」
こ…言葉の終わりまではっきりと
○班で、思いを話そう○友だちの思いを聞こう

豊川の授業　16のポイント　⑭ふりかえり

○「ふりかえり」の十分な時間を確保することで、自分と友だちの考えの比較や次時へのつながりのある内容を書くことができる。
○「ふりかえり」の内容の工夫
・授業のめあてに対するふりかえりと友だちの発言ら感じたことなど、視点を決めて書くことを習慣化する。
・影響を受けた友だちの名前を入れてふりかえりを書くことにより、学び合いの成果を意識することができる。

豊川の授業　16のポイント　③ねらい ④課題

○すぐに答えの出る課題ではなく、みんなで考えないと分からないような課題や、どうしても解決したくなる課題を設定する。
○本時のめあてや流れを黒板に示し、子どもたちが見通しをもって安心して授業に取り組むことができるようにする。
○授業のねらいを子どもたちのノートにも書かせることで、ねらいをはっきりさせ、ふりかえりに生かすことができる。

豊川の授業　16のポイント　チェックリスト活用例

○「豊川の授業　16のポイント」を、本年度、重点をおきたいものを選び、本校バージョンにカスタマイズして、全ての授業で活用。
○16のポイントの中から、選択した重点項目について、週案簿の中でチェックし、反省点や成果を記述していく。重点項目については、毎学期見直しを行う。
○授業チェックリストを活用し授業のやりっぱなしやチェックしっぱなしではないRPDCAサイクル(Reseach/Plan/Do/Check/Action)を意識した現職研修体制を構築する。

豊川の授業　16のポイント　⑥考えを表現する

○自分の考えをもたせたあと、より主体的に考えを伝え合うため、目的に応じてペアやグループを積極的に活用する。少人数であるために自分のことばで話すことができる。また、自分たちで解決できた喜びにつながる。

○ペア、グループでの話し合いを活発化させるため、ホワイトボード等を利用し、考えの交流を深める。ホワイトボードをグループごとに活用することで、授業への全員参加が保障され、子どもたちの学ぶ意欲の喚起になる。
○ペア、グループで話し合ったことを全体の場で共有する際、実物投影機やホワイトボードを活用し、根拠を示した話し合いをするとで、さらに理解が深まる。
○教師は、子どもの発言に、うなずいたりよさを認めたり、「どう思う」などと問い返したりして子どもたちの考えを深めていく。